

令和7年度広島県献血推進審議会議事録（概要）

- 1 日 時 令和8年2月5日（木） 14時00分から16時まで
- 2 場 所 広島市中区千田町二丁目5番5号
広島県赤十字血液センター2階研修室
- 3 出席委員 16名（○：会長）
西本 博之 委員（広島県議会 議員）
杉原 清香 委員（広島大学原爆放射線医科学研究所 助教）
○落久保 裕之委員（一般社団法人広島県医師会 常任理事）
北原 加奈子委員（広島県健康福祉局 局長）
阿部 由貴子委員（広島県教育委員会学びの変革促進部長）
※ 三上 洋三氏（豊かな心と身体育成課課長代理）代理出席
木村 剛毅 委員（広島県公立高等学校長協会 副会長）
江口 史憲 委員（広島県私立中学高等学校協会 会長）
石松 大介 委員（西日本旅客鉄道労働組合広島地方本部 執行委員長）
横山 鉄幸 委員（公益社団法人広島県労働基準協会 専務理事兼事務局長）
山本 幸 委員（広島県地域女性団体連絡協議会 理事）
武田 直也 委員（一般財団法人広島県環境保健協会 常務理事）
小池 英樹 委員（社会福祉法人広島県社会福祉協議会 常務理事兼事務局長）
岩上 譲治 委員（公益財団法人広島県交通安全協会 専務理事）
濱本 義樹 委員（ライオンズクラブ国際協会 336-C地区
地区糖尿病等保健福祉委員会 委員長）
田中 知徳 委員（福山市献血推進協議会 委員）
坂井 浩明 委員（日本赤十字社広島県支部 事務局長）
麻奥 英毅 委員（広島県赤十字血液センター（以下「血液センター」） 所長）
- 4 議 題 ◎報告事項
・広島県の献血状況
・令和7年度広島県献血推進計画に対する実施状況
・赤血球及び血液製剤の在庫状況
・県内の献血の現状について
◎審議事項
・令和8年度広島県献血推進計画の策定について
- 5 担当部署 広島県健康福祉局薬務課製薬振興グループ
TEL（082）513-3223（ダイヤルイン）
- 6 会議の内容 報告事項及び審議事項について事務局が説明し、委員からの意見、質問に答えた後、令和8年度広島県献血推進計画について審議し承認された。
- ◎報告事項 事務局（薬務課）より
・広島県の献血状況及び令和7年度広島県献血推進計画に対する実施状況について、事務局（薬務課）から説明。

[質問・意見等]

(木村委員)

資料の4ページで16歳から19歳のところで、本県では年代別献血率が低いということです。

一方、トップは栃木県ですが、倍以上の成果を上げているということで、本県で実施してなくて、栃木県で取り組んでいる特徴的な取組があれば教えてください。

(事務局(薬務課))

ご質問ありがとうございます。栃木県の献血者数が多いことは把握しておりまして、以前お伺いさせていただいたことがあります。栃木県の特徴的な取組として、県内の全ての高等学校に献血バスを配車するよう計画されており、献血バスが必ず学校に来るそうです。

昭和の時代から実施している取組で、高校に献血バスが来ることは文化として根付いているようです。献血バスが来るのが当たり前になっているので、学校としても受け入れやすい体制になっているとお伺いしております。

(落久保会長)

なかなか難しいところですが、積極的な働きかけが重要であることは間違いのないと思われまます。

(西本委員)

分かりました。もう1点質問させていただきます。

献血量が減っているかどうかという点では、事務局の説明では目標量は達しているということは分かりました。では、目標量を達成していることと、血液の不足の関係について教えていただきたい。要は、最初に計画した目標量が達成できる見込みであれば、必要な献血量は不足してないという理解で良いか。

(事務局(薬務課))

目標量は高く設定しており、それ(必要な献血量)は達成しています。実際には足りている状況ではありますが、やはり不足してはいけませんので、高い目標を設定し、それらに向けて取組を実施することが必要になります。

(事務局(血液センター))

年間としてみた場合、達成すべき目標量があり、それに基づいた計画があります。そして、計画を基に献血をしていくが、時期的に在庫の方が少なくなる時期や多くなる時期も出てきます。

そうすると、日々の進捗管理をする中で献血バスを出すのは止めたり、時間を延長したり、新たにバスを出したりということで、患者様のもとに輸血用血液製剤が届かないというようなことがないように努力をしているところです。

今年度においては一度その在庫がとても少なくなる時期がありました。後ほど資料でご説明いたします。

(西本委員)

気になったのは、以前、血液型によっては不足傾向になりがちで大変と聞いたことがあります。目標管理の仕方が単純に、血液量が目標量を達成するかどうかではなく、不足の事態があったのかどうか、その辺りも考えないと緊急の時に助けられる命が助けられないということになるのではないかと。必要な血液製剤の

確保は重要な取組ですので、目標というよりかは、実態についてもしっかり管理を行っていただきたいと思いますので、質問させていただきました。

(落久保会長)

目標設定の仕方について、ご説明いただいてもよろしいですか。各県が独自に出すのか、どのように設定しているのか教えていただきたいです。現状としては、目標量を少し上回り、不足もなかった点については、非常に良い目標設定の仕方であると考えていますが、どのように設定されているかを教えていただければと思います。

(事務局（血液センター）)

令和7年度までと、この令和8年度からは計画の方法が変わりました。以前については、各県の需要と供給する輸血用血液製剤の予測をもとに事業計画を立てており、中四国ブロックである中四国地方の9県分の予測をもとに各県の献血者数を割り出すという方法を取ってまいりました。

令和8年度からは、採血計画のところだけが全国体制に変わりました。全国で必要な量を算出した上で、ブロック毎に必要な献血者数がまず割り当てられます。そして、中四国ブロックで割り当てられた献血者数をそれぞれの県の人口比率や、採血能力等で割り振られます。ですので、単純に広島県内の輸血治療が必要な方々の量を補う分だけではなく、採血能力という意味においては、中四国9県においては人口が少ない県も多いですし、人口減少率の高い県も多いですので、広島県にはその分少しプラスして設定された目標の部分もございません。

(落久保会長)

分かりました。広島県が中四国ブロックを支えている点も踏まえ、目標値が広島県は多くなっているということですね。その背景も、若い方々にご理解いただくことも必要かなと思いました。

- 赤血球及び血液製剤の在庫状況及び県内の献血の現状について、事務局（血液センター）から説明。

[質問・意見等]

(西本委員)

説明で赤血球在庫状況の需要が増えたという説明がありましたが、イレギュラーなのか。需要が増えた理由をしっかりと把握しておかないといけないと思うので、どういう理由で増えたのか教えていただけますか。

(事務局（血液センター）)

分かる範囲ではありますが、今年度については、春から夏にかけての供給量が例年に比べて緩やかな形で進んでまいりました。例年であれば、季節の変わり目あたりで輸血治療が必要な患者さんが多くなります。

心臓にもともと病気を持っていらっしゃる方もいれば、循環器系に関する患者さんもおられ、季節の変わり目で輸血量も増える傾向があります。それが9月ぐらいから始まりますが、今年度は、暖かい時期が続いたため、11月の気温の変化とともに一気に患者さんが増えてしまったのではないかと考えられます。

実際その使用量の多かったものについては、心臓血管外科のオペが重なったという状況が、報告されたことは確かですけれども、全国の状況において、それ

が全てかというところについては、定かではございません。一部の情報で申し訳ございません。

(西本委員)

同じ状況がずっと続くのであれば、何か手を打っておかないと、在庫量が一気に落ちてしまう気がしますので、これから細かく見ていって、安心して血液を確保しておくというような仕組みを整える必要があると思います。検討していただければと思います。

(落久保会長)

私も11月になぜ供給が増えたのかと疑問に思っておりました。このことについて麻奥委員から何かありますか。

(麻奥委員)

いろいろな要因で患者さんの変動が大きいというところだろうと思いますが、献血基盤の大きさが影響していると思います。

例えば、十年前であれば、献血経験者が多く、1回でも献血を経験した人がたくさんいらっしゃいましたので、急に需要が増えたということに対して、すぐに協力してくれる人たちがいました。それが献血基盤というものですが、それがしっかりあるときには、割と早く集まる。例えばAB型が少ないと町内で放送をかけるとすぐに集まってくる。というようなことが以前は多かったが、だんだん献血基盤が小さくなるとその対応が難しくなっているのが現状であります。

一年を通してならばプラスマイナスゼロでちゃんと需要に対する供給が出来ているように見えますが、1日1日で見ると急に予定外に手術が重なるということはまれですが、あることはあるのでそれに対応できるかどうかというのが、やっぱり献血基盤の大きさということで、今は献血基盤がずいぶん小さくなっているので、すごく危機感を持って皆さんにお願いしているところでございます。

(落久保会長)

ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。広島県において、献血量がなんとか目標を超えているというのは、リピーターの皆様が頑張っていて献血に協力して下さっている部分があるかと思っておりますので、ぜひいろいろな知恵をいただきながら、初回の献血者を獲得するための活動にご協力をお願いしたいと思います。

◎審議事項（事務局（薬務課））

- 令和8年度広島県献血推進計画の策定について、事務局（県薬務課）から広島県献血推進審議会議案書及び資料により説明。

[質問・意見等]

(西本委員)

資料の中にあつた30ページのところですが、先程ご説明いただいた献血基盤、こういう言葉はないんですけども、そういうところを踏まえながら令和8年度は緊急時の対応を災害時を含めて対応できるよう少し考えながらこの事業を推進していただければと思います。

(落久保会長)

献血基盤という基本的な考え方を広げていくということを記載するご提案でございます。事務局いかがでしょうか。

(事務局(薬務課))

先ほどのご指摘も踏まえまして、次年度以降に検討させていただこうと思います。

- ・令和8年度広島県献血推進計画について審議し原案通り承認された。

(事務局(薬務課))

委員の皆様、ありがとうございました。令和8年度は本計画に基づきまして、関係機関と連携して献血事業を推進してまいりたいと思いますので、皆様方の引き続きのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。なお、この計画につきましては、3月中に公表させていただく予定でございます。また、皆様方にもお配りしたいと思います。

◎その他

[質問等なし]

審議会終了

会議の資料名一覧

- 令和7年度広島県献血推進審議会次第
- 令和7年度広島県献血推進審議会資料
- 広島県献血推進審議会議案書